

ノンファクター製剤 登場を受けて、 今後の血友病 A 診療を考える



[司会]

嶋 緑倫先生

奈良県立医科大学血栓止血研究センター
センター長・副学長・医学部長

岡 敏明先生

医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院
小児科臨床顧問・血友病センターセンター長

鈴木伸明先生

名古屋大学医学部附属病院輸血部助教



長尾 梓先生

医療法人財団 荻窪病院血液凝固科

※本座談会はリモートで行われました。

血友病 A の標準治療として普及している第 VIII 因子製剤による定期補充療法には、頻回の静脈注射の必要性、インヒビター発現とインヒビター陽性例の治療、血友病性関節症の進行抑制、といった未解決の課題がある。これらの解決のため、因子補充によらない治療法が模索されてきた。2020 年時点で使用可能なバイスペシフィック抗体はインヒビターの有無を問わず、長期持続型皮下投与製剤であることから、血友病診療にパラダイムシフトといえる変化が起きつつある。本座談会では「ノンファクター製剤登場を受けて、今後の血友病 A 診療を考える」と題し、小児・成人における導入の実際や解決すべき課題についてディスカッションいただいた。